

第9次中期経営計画

第105期(2024年4月)～第107期(2027年3月)

2024年2月

SECカーボン株式会社

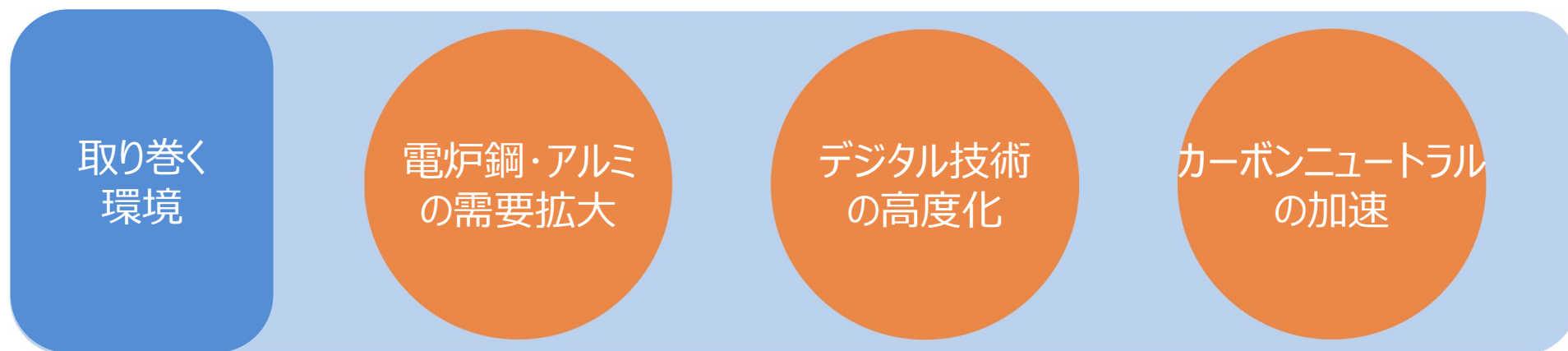
第9次中期経営計画

<目次>

- I. 取り巻く環境と目指す姿
- II. 第8次中期経営計画の振り返り
- III-1. 第9次中期経営計画の位置付け
- III-2. 第9次中期経営計画の全体像-ビジョン・基本方針・数値目標
- IV-1. 基本方針-成長基盤の強化
- IV-2. 基本方針-経営体質の強化
- IV-3. 基本方針-資本政策の推進

I. 取り巻く環境と目指す姿

取り巻く環境と期待要素



【取り巻く環境】

中長期的に電炉鋼・アルミの需要拡大、デジタル技術の高度化、カーボンニュートラルの加速を想定

【期待要素】

- ・脱炭素を背景とした高炉鋼から電炉鋼への転換
- ・脱炭素を背景とした軽量素材であるアルミへの転換
- ・デジタル化を背景とした半導体産業の拡大

I. 取り巻く環境と目指す姿

当社グループが目指す姿



当社グループが
目指す姿

【ミッション】

- ・世界から信頼され成長し続けるカーボンメーカーとして地球環境を大切に、社会の発展に貢献する

【2030経営ビジョン】

- ・お客様及び社会の諸課題の解決に貢献するべく、事業基盤の安定化、一層の事業拡大を図り、新たな事業も創造する
- ・資本効率を高めて企業価値を向上させて、ステークホルダー皆様の期待に応える企業に飛躍する

【サステナビリティ】

- ・当社グループのミッションに相応しいサステナビリティ経営を推進する

※ 本内容は2023年5月12日付「中長期経営ビジョンおよび中長期経営目標の策定」にて開示済み

I. 取り巻く環境と目指す姿 サステナビリティ経営

ESG	サステナブル重要テーマ（マテリアリティ）
E（環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン全体でのCO₂排出削減 ・カーボンニュートラルに貢献する製品開発・上市
S（社会）	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の尊重と人財育成 ・地域社会への貢献
G（企業統治）	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス強化 ・ステークホルダーとの対話促進

- ・当社グループの持続的成長に向けた重要課題をサステナブル重要テーマ（マテリアリティ）として設定
- ・マテリアリティの推進が企業価値向上に欠かせないとの認識のもと、当社グループにおける重要課題の解決に向けた取組みを進める

Ⅱ. 第8次中期経営計画の振り返り

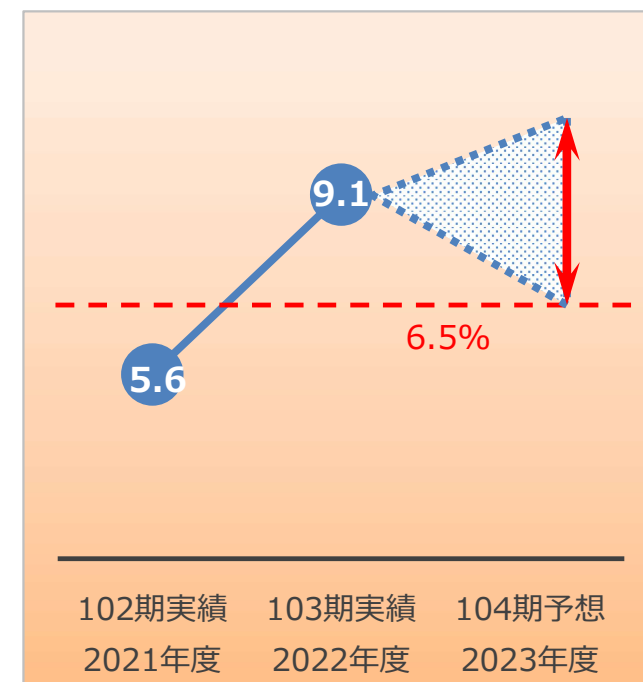
売上 (百万円)



営業利益 (百万円)



ROE (%)

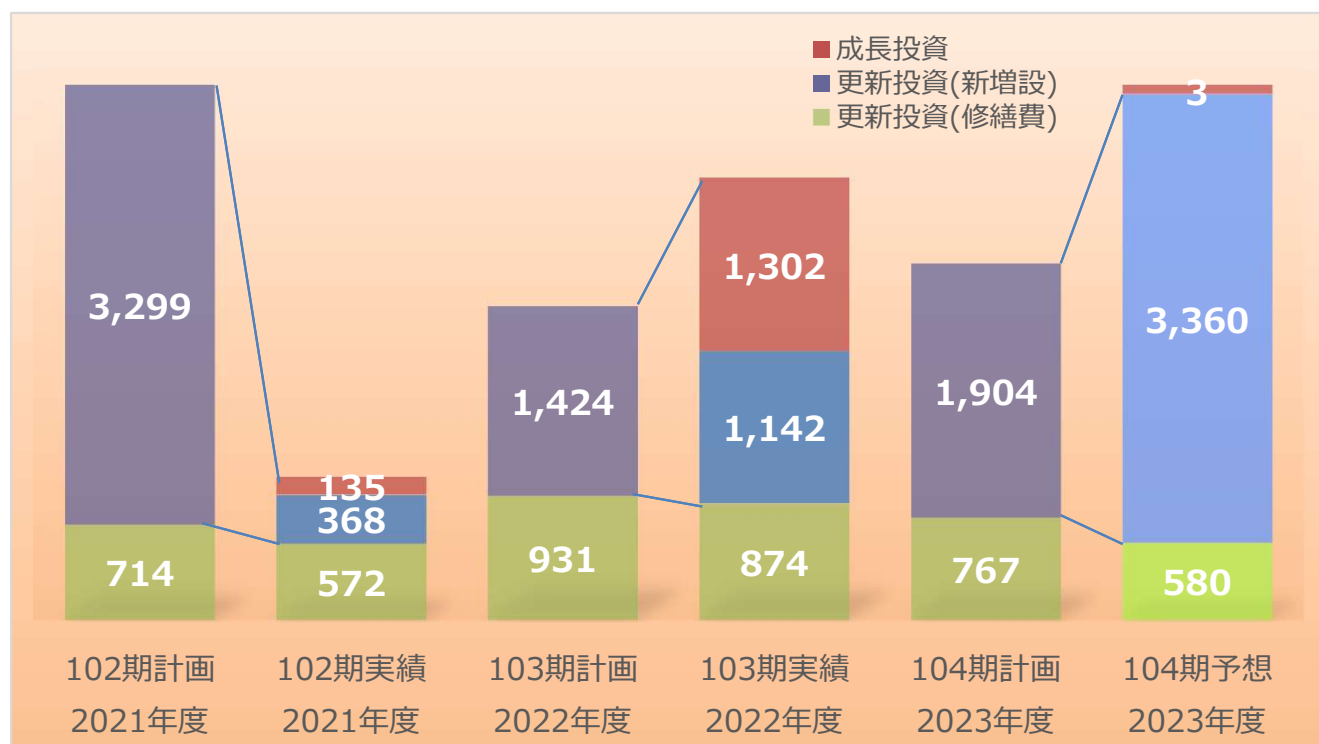


第8次中計の最終年度にあたる2023年度の業績は、第8次中計の当初目標
 (売上：340億円、営業利益：60億円、ROE：6.5%以上) を上回る見通し

Ⅱ. 第8次中期経営計画の振り返り

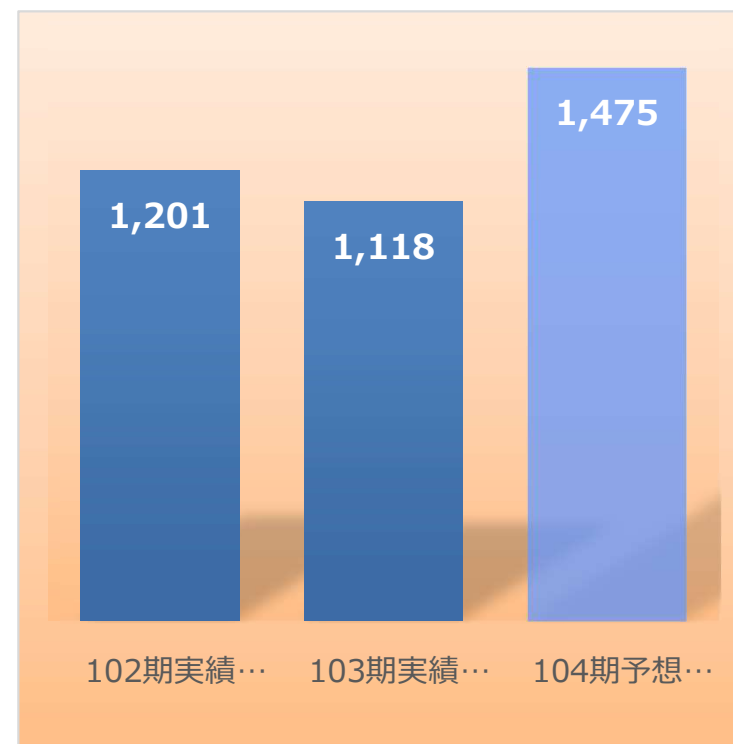
設備投資計画・実績

(百万円)



減価償却費

(百万円)



Ⅱ. 第8次中期経営計画の振り返り

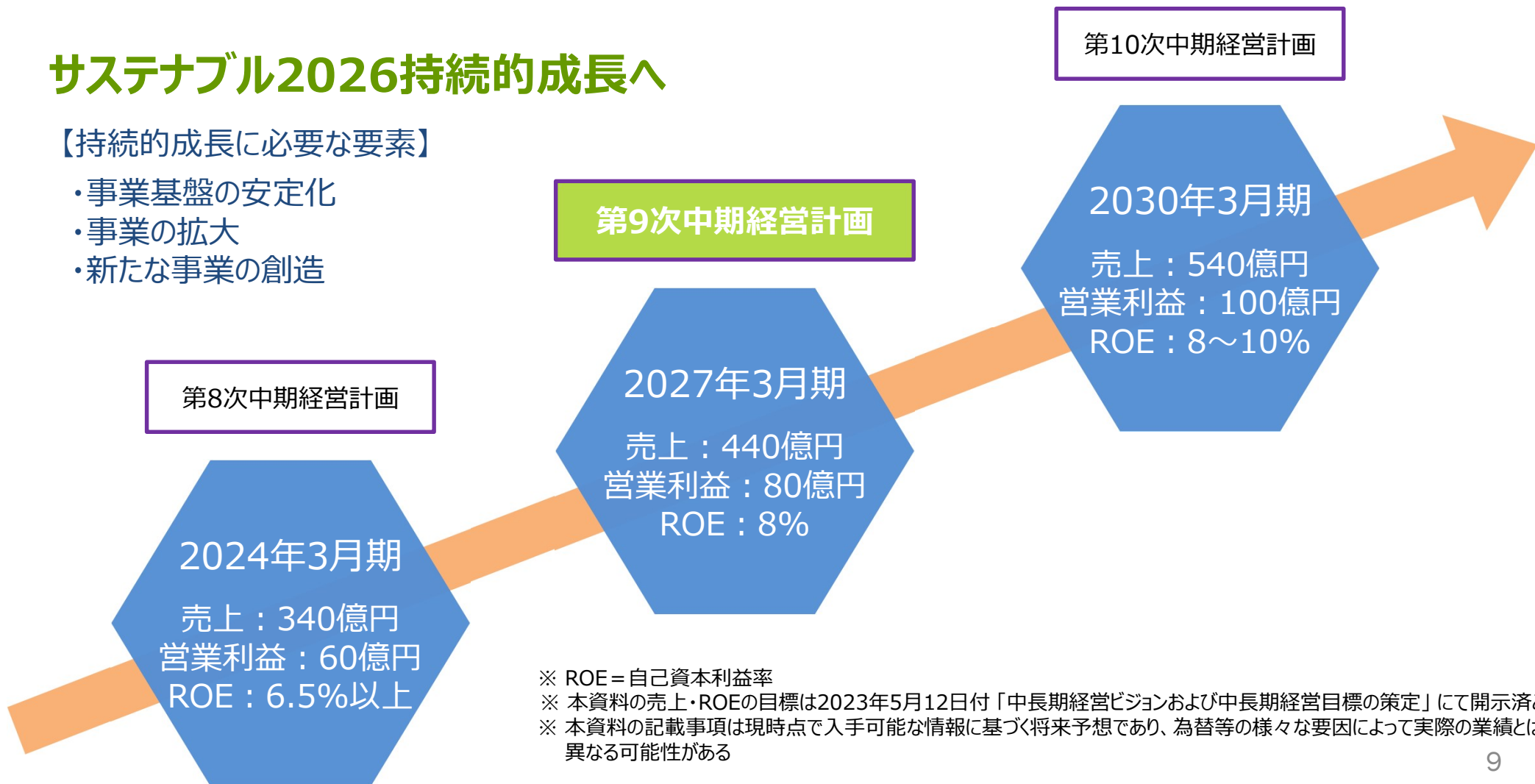
成 果		課 題
成長基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ製錬用カソードブロックの拡販 ・ファインパウダー生産の増強投資 ・カーボンニュートラルに貢献する研究開発の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・中計実績値が目標値を上回る見通したが、円安の恩恵による面が少なくない ・ものづくりに欠かせない主要設備について、更新投資の道筋はついたが、将来成長に繋がる攻めの投資に課題が残る ・人造黒鉛電極の拡販に課題が残る ・企業価値の向上には成長基盤および経営体質の一層の強化に加えて、資本政策・サステナビリティにも力点を置いた事業運営が必要
盤石なものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・主要生産設備更新の推進 ・品質向上の推進 ・原料調達最適化の推進 	
変化を生み出す人・組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価最適化の推進 ・女性社外取締役の就任 	

Ⅲ-1. 第9次中期経営計画の位置付け

サステナブル2026持続的成長へ

【持続的成長に必要な要素】

- ・事業基盤の安定化
- ・事業の拡大
- ・新たな事業の創造



※ ROE = 自己資本利益率

※ 本資料の売上・ROEの目標は2023年5月12日付「中長期経営ビジョンおよび中長期経営目標の策定」にて開示済み

※ 本資料の記載事項は現時点で入手可能な情報に基づく将来予想であり、為替等の様々な要因によって実際の業績とは異なる可能性がある

Ⅲ-2. 第9次中期経営計画の全体像-ビジョン・基本方針・数値目標

ミッション

- 世界から信頼され成長し続けるカーボンメーカーとして地球環境を大切にし、社会の発展に貢献する

ビジョン（2026年のあるべき姿）

- 持続的成長によってみんなが豊かになっている

基本方針

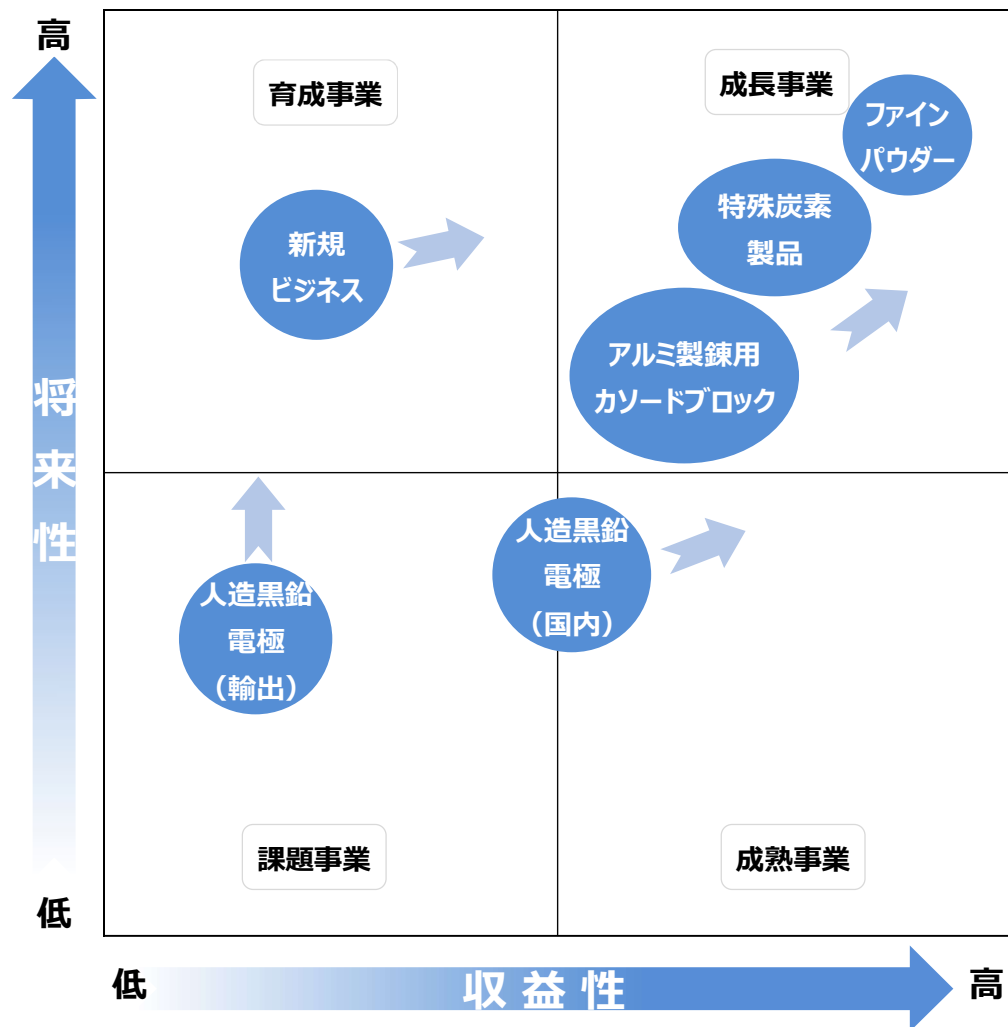
- 成長基盤の強化
- 経営体質の強化
- 資本政策の推進

数値目標

- 売上 : 440億円
- 営業利益 : 80億円
- ROE : 8%

IV-1. 成長基盤の強化

事業ポートフォリオ



事業ポートフォリオの考え方

- 将来成長に向けての成長事業・育成事業に注力するとともに、成熟事業・課題事業についても安定収益化に向けた取組みを進める

製品分野	ありたい姿	主な打ち手
アルミ製錬用カソードブロック	アルミ電解時のCO2排出抑制に貢献する黒鉛化カソードブロックで市場およびシェア拡大による更なる成長を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値向上 市場拡大による拡販 市場開拓
人造黒鉛電極国内／輸出	CO2排出抑制に貢献する電炉鋼が拡大する中、市場体制と採算が担保された安定的製販体制の確立と拡販	<ul style="list-style-type: none"> 品質向上 海外(北米等)拡販 太物電極拡販
特殊炭素製品 ファインパウダー	既存ビジネスにおける当社得意分野のシェア拡大、他社と差別化した製品・技術の創造	<ul style="list-style-type: none"> 生産増強 市場拡大による拡販 市場開拓 M&A
新規ビジネス	カーボンニュートラルに貢献する新製品の開発・上市	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発強化 社会実装早期化 市場開拓

IV-1. 成長基盤の強化 <アルミ製錬用カソードブロック>

製錬コスト削減

黒鉛化カソードブロックを使用することで、製錬時の電力削減効果を得られ、例えば年産50万トンのアルミニウム製錬所では年間222GWhの電力コスト削減が実現できる

3.4
%

電力削減

非黒鉛化→黒鉛化カソードブロックへ転換の効果

222
GWh/年

電力削減

50万トン/年生産のアルミ製錬所では、年間222GWhの電力削減効果

16
億円/年

電力コスト削減

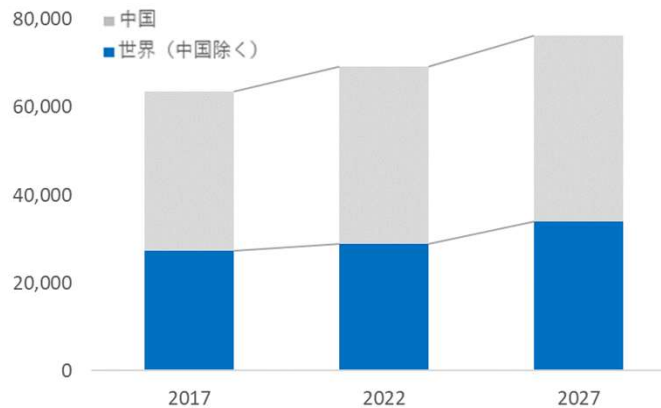
50万トン/年生産のアルミ製錬所では、年間で約16億円の電力コスト削減効果が得られる



アルミ需要

世界のアルミニウム生産量は今後も増加し、同様にカソードブロック需要も伸びることが予想される

世界のアルミニウム新地金生産量（千トン）

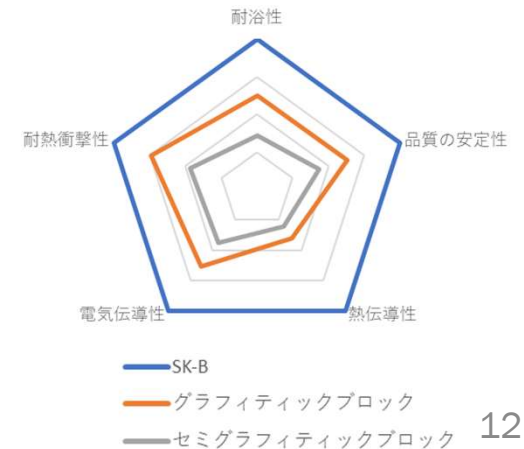


出典：CRU

更なる販売増

- ・黒鉛化カソードブロックの特性を活かし、黒鉛化カソードブロックを使用するアルミニウム製錬所の割合を増やし、市場拡大によるSK-Bのさらなる販売増を目指す
- ・既存設備の複合的活用（スイング生産）による生産増強も進めて更なる販売増に備える

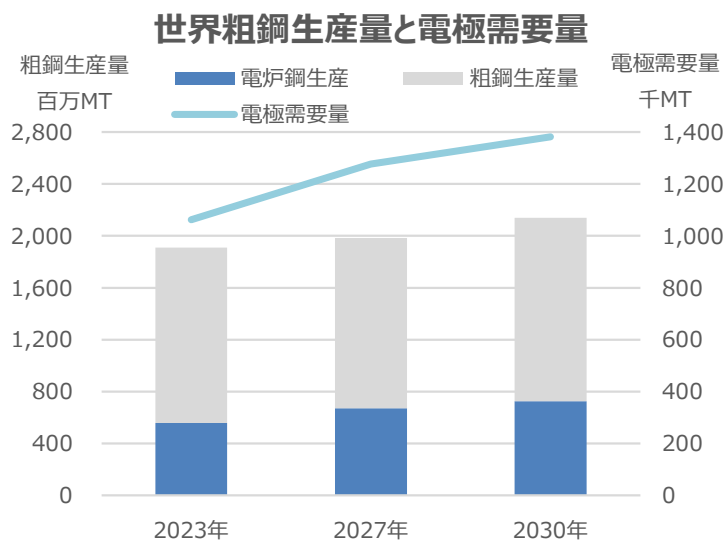
カソードブロックの品質比較



IV-1. 成長基盤の強化 <人造黒鉛電極>

脱炭素化への貢献

直近、米国以外では鉄鋼需要が減退傾向にあるが、今後、CO₂排出量抑制に貢献する電炉鋼の拡大に伴い、人造黒鉛電極の需要量は増加する見通し

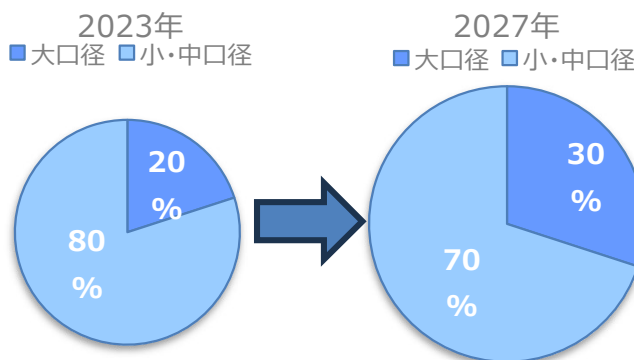


出典：当社推察値

電極の大口徑化

今後新設される電炉鋼用の電気炉の大型化が想定される中、大口徑の人造黒鉛電極の需要量増が見込まれる

電極販売量の大口徑比率



28インチ以上を大口徑、それ以下を小・中口径

取組み

品質改善

製品品質向上（含捏合成形設備の刷新）による安定した顧客シェアを確保

更なる販売増

好調な米国を中心とした新規顧客の開拓

設備対応

将来の大口徑化に向けては、新たな設備対応を検討

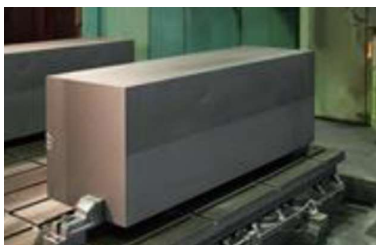


IV-1. 成長基盤の強化 <特殊炭素製品・ファインパウダー>

特殊炭素製品

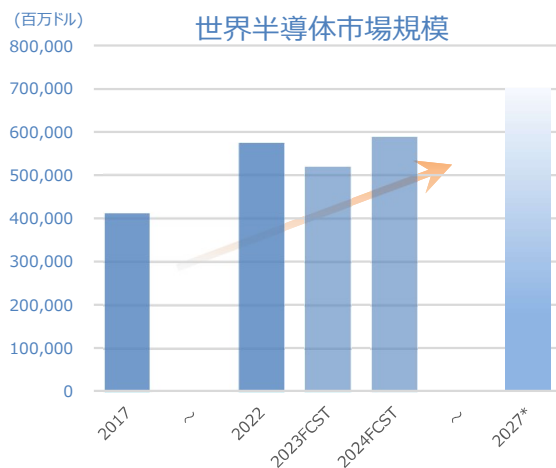
販売強化

大型押出特炭材は非鉄金属向として求められる特性を強化し、差別化するとともに安定した供給体制で顧客のニーズにこたえる



新規開拓

半導体業界の拡大に伴い当社の強みとする押出特炭材の販売拡大を図る



※ WSTS (News Releases 2023.11.28) のデータを元に2027年を推測

ファインパウダー

設備増強

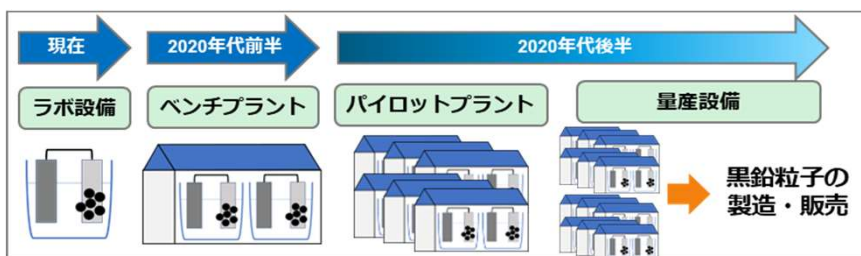
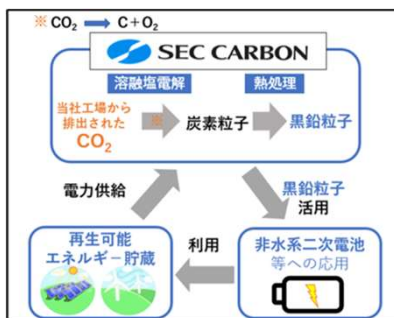
ファインパウダーは、自動車・EV等の関連市場の拡大に伴い、今後大幅な需要増加が見込めることから、設備の増強を進めている。増加した生産分の顧客開拓を進め販売拡大を図る



IV-1. 成長基盤の強化 <新規ビジネス>

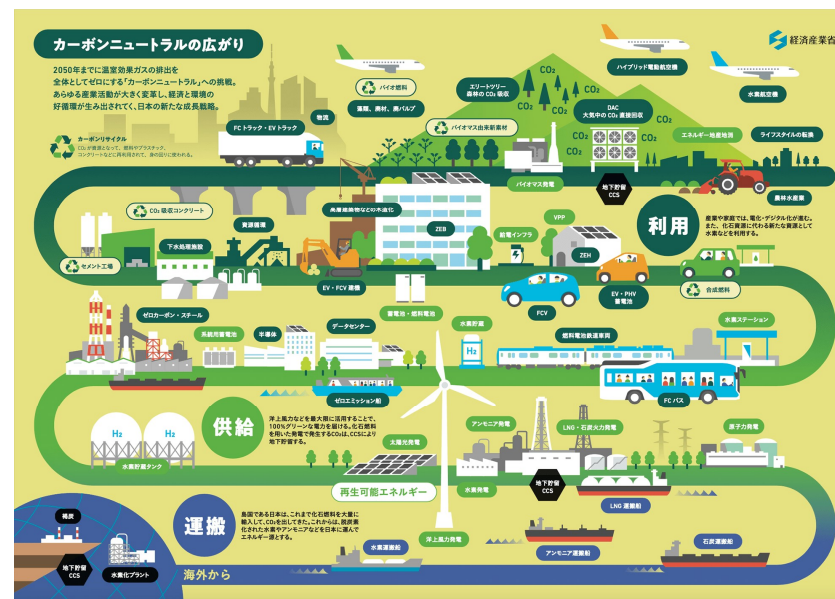
新規ビジネス① <CO₂ 資源化>

「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、CO₂ 資源化の取り組みを引続き進める



新規ビジネス② <新製品開発>

未来志向で新たなものづくりにチャレンジする機運が高まる中、カーボンニュートラル・省エネに貢献する領域における新たな製品(素材)開発に鋭意取り組む



出典：経済産業省グリーン成長戦略

IV-2. 経営体質の強化

企業価値向上に貢献する経営体質の強化

ものづくり最適化

- 原料調達最適化
- 製品品質最適化
- 設備管理最適化

人材戦略強化

- 事業成長に貢献する人材の採用・配置・育成

I T 基盤強化

- I T インフラ構築
- I T 技術活用

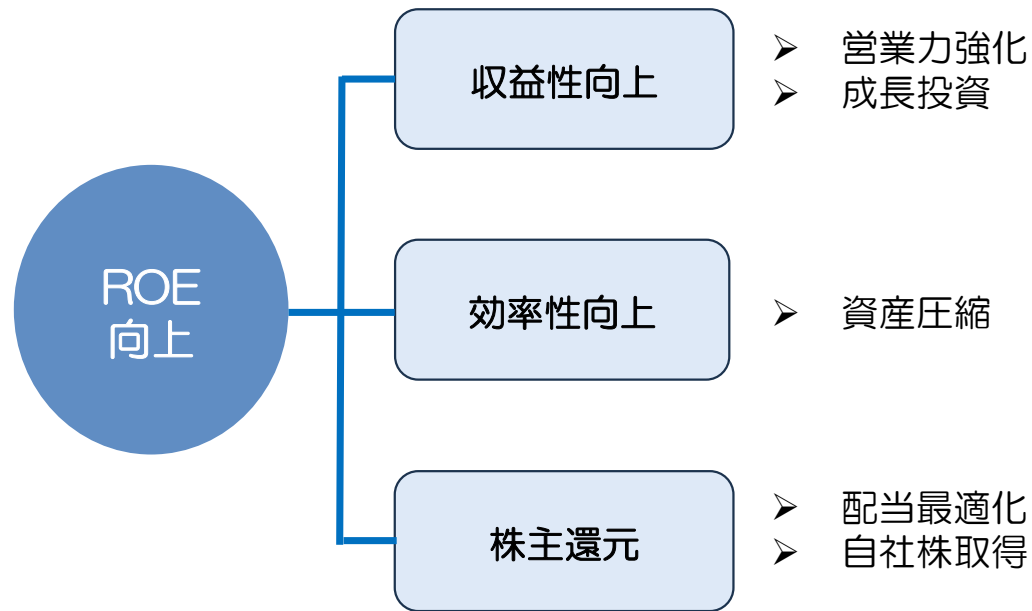
カーボンニュートラルへの貢献

- CO₂ 排出抑制策推進
- 新規ビジネス推進




IV-3. 資本政策の推進 企業価値向上に向けた取組み

企業価値向上を図るための経営指標としてROE（自己資本利益率）を採用

- 企業価値向上に向け主に非事業用資産の圧縮を行い、資本構成の改善を図る
- 本中計における目標ROE 8%



目指す貸借対照表の姿

 現預金 (最適化)	負債
事業用資産	
 有価証券 (圧縮)	 純資産 (最適化)

IV-3. 資本政策の推進 投資方針・計画

企業価値向上に資する成長投資・戦略投資も積極的に推進

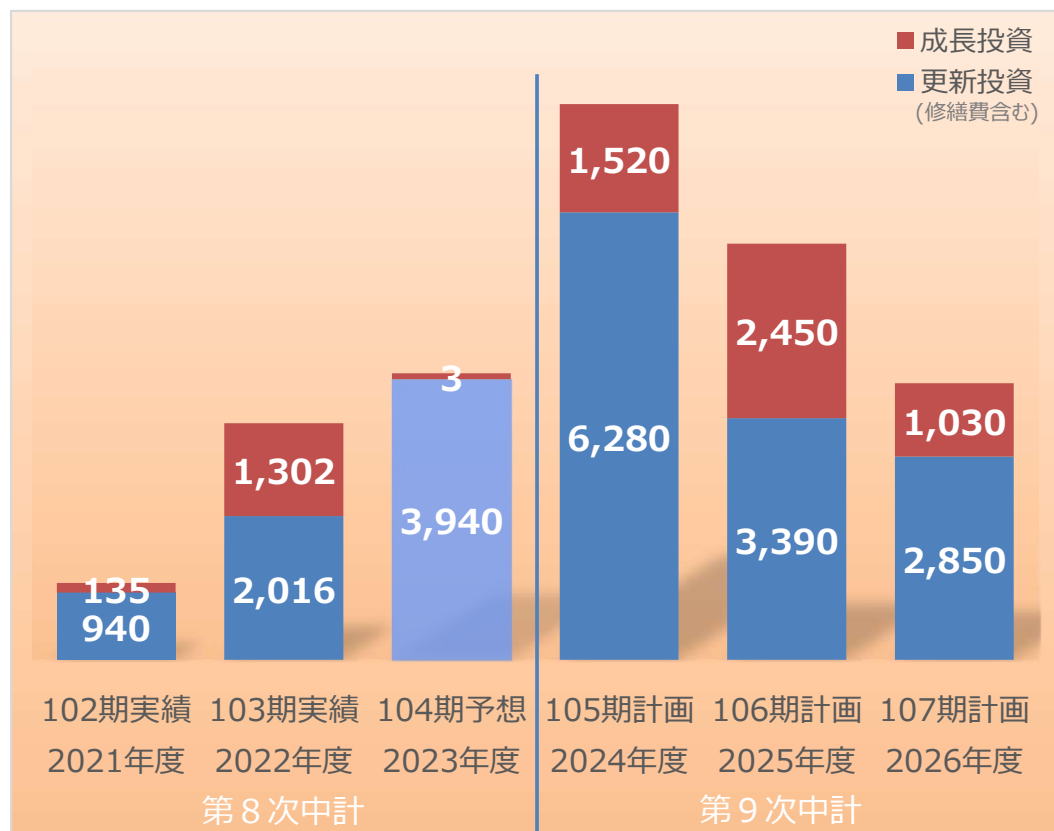
- ・企業価値の向上に向けて成長投資を積極的に推進
- ・成長投資は生産設備の改善・増強や研究開発の領域を軸に実施
- ・有益な成長機会となる戦略投資(M&A等)を積極的に推進
- ・優先度の高い戦略投資先は特殊炭素製品・ファインパウダーに関連する事業領域
- ・第9次中計期間中にものづくりに必要な主要設備の更新投資を完了させる

投資領域		第8次中計 実績見込	第9次中計 計画
設備更新 投資	・ものづくりに必要な主要設備の更新	69億円	125億円
成長/戦略 投資	・生産設備の改善・増強投資 ・研究開発投資	33億円	140億円
	・事業提携等投資(含M&A)		
投資総額		102億円	265億円

IV-3. 資本政策の推進 設備投資計画

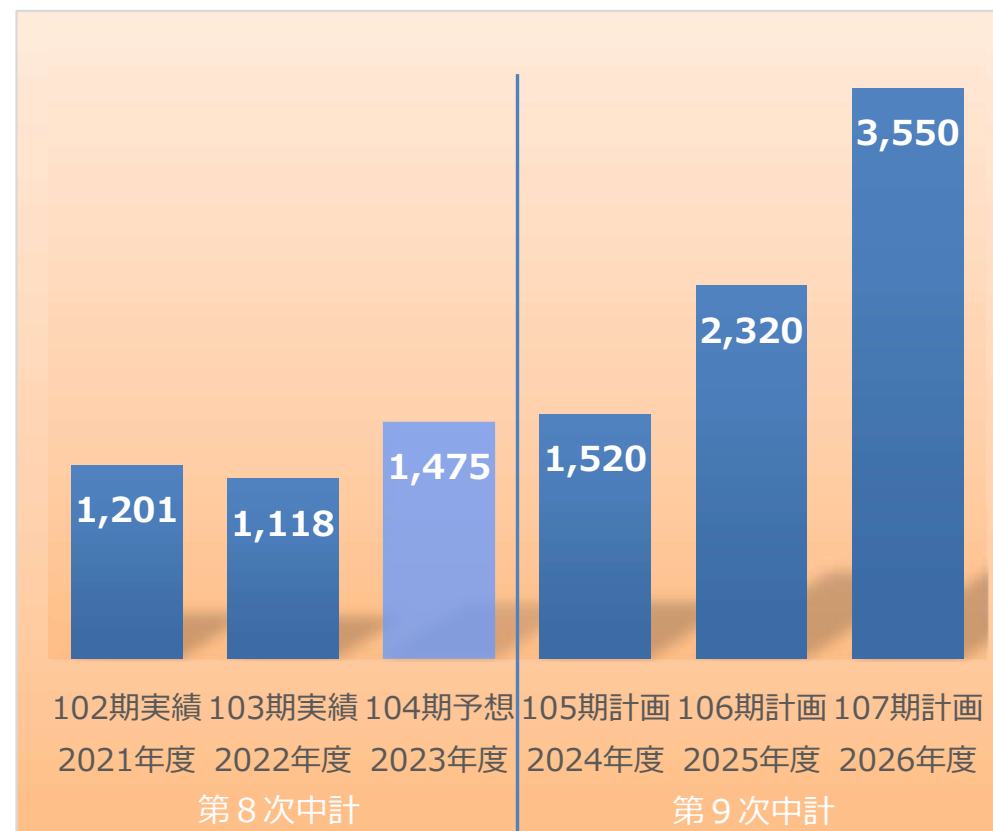
設備投資計画・実績

(百万円)



減価償却費

(百万円)



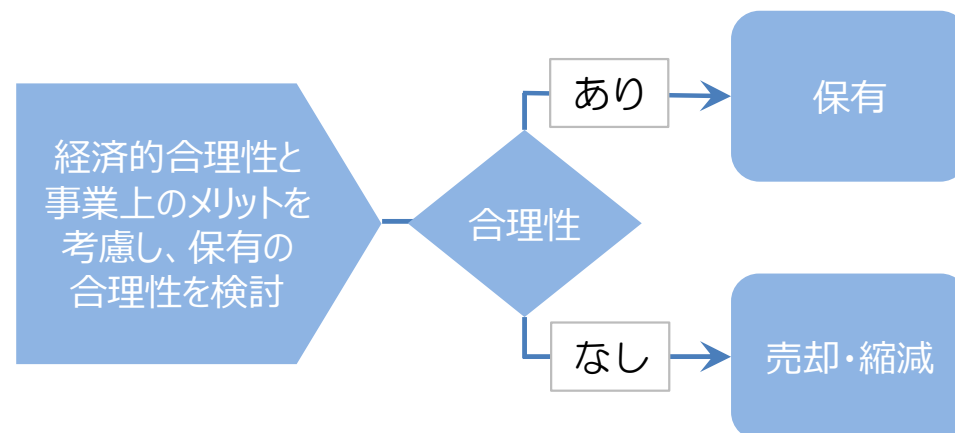
IV-3. 資本政策の推進 資産圧縮方針

資産の効率化を図るべく資産圧縮を推進

第9次中計期間中に累計60億円を目安に在庫、政策保有株、遊休不動産等の資産圧縮を順次進める

在庫圧縮

政策保有株売却・縮減



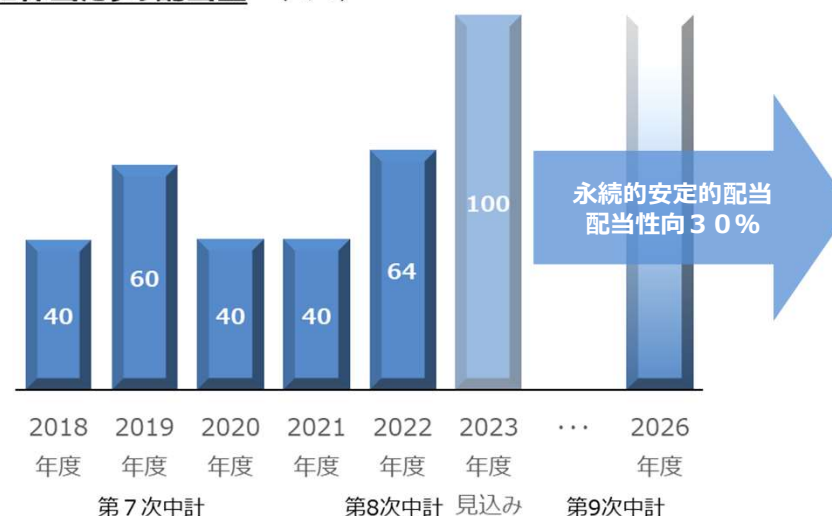
IV-3. 資本政策の推進 株主還元方針

配当と自社株取得を組み合わせた株主還元を推進

- 配当については、収益性の向上と財務の健全性を図りつつ、永続的・安定的な配当を実施
配当額は連結配当性向 30%を目安とする
- 自社株取得については、業績の動向、資本の状況、市場環境等を考慮の上機動的に実施

株主還元方針		
	前中計	新中計
配当	安定配当	連結配当性向 30% を目安に実施
自社株取得	—	機動的に実施

1株当たりの配当金 (円/年)



※ 但し、過去の配当額は株式分割後の一株当たりの金額に見直した値

IV-3. 資本政策の推進 キャッシュアロケーション

成長投資・戦略投資への大幅な配分により企業価値の向上を目指す

